



ディスカッション

今年は各行事の時期の大きな配置替えが行われています。体育祭が6月に、文化祭が10月に、球技大会は11月に移ります。スプリングキャンプや遠足の時期も前倒しに移動しました。そんな中、まず体育祭が6月8日に行われました。今までと同じ取り組みをこの時期にやれるだろうか、エッサッサやダンスの練習は間に合うのだろうか、連合の応援の準備は今まで通りできるだろうか、等の不安の中でしたが、18期生を中心に、今まで以上の素晴らしい体育祭を創り上げてくれました。応援看板を背に（注：去年から）作り上げた自分達の応援席の空間の中で、旗を振り、ポンポンを振り一生懸命に応援する姿に見ている者も熱くなりました。今や新しい名物になった連合対抗綱引きに熱くなり、連合対抗リレーで盛り上がった後、いよいよフィナーレ、注目の中、女子のダンスのスタート。その統一された見事な動きに満場の溜め息。しばしの静寂の後、太鼓が鳴り響き、男子の入場。気合いの入った演技に空気が震え、アッという間に演技終了。拍手が鳴りやまぬ中、エッサエッサの掛け声での退場。閉会式も含めて、素

晴らしい体育祭だったと思います。今変わりつつある柏原東を実感させてくれた瞬間でした。

今、もう既に文化祭の準備に入っています。今年文化祭の改革に大きく一步を踏み出します。1年は全クラスがステージにチャレンジ、2年は早くから学年のHR運営委員会で文化祭を盛り上げる為の取り組みを練っています。次年度の日曜開催を実現するためにと本気の議論も始めています。果たして変わるか文化祭、ワクワクする秋になりそうです。

私達は、この柏原東に入ってきた一人一人が早く高校生活に馴染み、高校生活に魅力を見つけ、これらの行事を通じて互いに高め合い、人間として大きく成長し、その思い出を携えて卒業していつか切に望んでいます。今、柏原東の評判はうなぎ登り、より良き学び舎とするために、進学や生指面だけでなく生徒会活動の果たすべき役割も大きいと考えています。他校生に誇れる楽しい学校生活、卒業しても思い出に残る高校生活を作り出せるよう、執行部ともどもこれからも頑張っていきたいと思っています。

平成8年度クラブ・顧問表

	部 名	顧 問
体 育 系 ク ラ ブ (21)	陸上競技	高松、田口、生田
	サッカー	鎮目、阿部、池田、深井
	硬式野球	白木原、岡田、青木
	男子バレー	中務、鈴木、谷口
	女子バレー	杉本、鈴木、中務、春名
	男子バスケット	桐山、喜多村、森内
	女子バスケット	植松、喜多村、上田
	バドミントン	杉本、本田、小田、鳥羽
	卓球	上塚、細尾、小山
	男子ソフトボール	白木原
	女子ソフトボール	青木
	男子硬式テニス	横山、黒瀬、中谷
	女子硬式テニス	岸田、横山
	剣道	白浜、鳥羽、寺田、細尾
	水泳	寺田、吉村
	山岳	古田、田口、横山
	柔道	森田、牧野、奥村
	ラグビー	岡本、中瀬、寺田
	ハンドボール	牧野、得田
	体操	牧野、植松
空手	中谷、高岡	
文 化 系 ク ラ ブ (16)	吹奏楽	谷口、森内
	美術	桐山、林
	放送	小野、古田、上塚
	演劇	中村、白浜、村上、梅原
	茶道	守屋、林、岸田、野元
	イラスト	桐山、吉村、植松
	軽音楽	中瀬、得田
	手芸	吉村
	囲碁・将棋	白浜、得田
	生け花	久保、高岡、酒井、五十嵐
	マイコン	得田、白浜
	書道	松本 ^香 、松本 ^隆 、渡辺
	写真	寺田、村上、奥村
	ボランティア	梅崎、松本 ^香 、横山
	シネマ	吉村、小山、植松、鳥羽
	理科クラブ	外村、鈴木、五十嵐、田中



野球部

僕達野球部は、少しでも長い間好きな野球ができるよう夏は炎天下、冬は厳しい寒さの中で毎日練習に励んでいます。代表的な練習としては、学校の東側の急な山道を利用して走り込むというもので、他校ではあまりできない柏原東独自なものを取り入れながらやっています。その成果もあって今年の夏の大会・大阪清陵との試合では多くの応援にも支えられ、4対2という接戦も勝つことができました。勝つことによってテレビ、新聞にも載ったので多くの先生や友人に「また頑張れよ」と声をかけてもらえて、とてもうれしかったです。全国一の激戦区の大阪では一勝することはとても困難なことです。一試合でも多くできるようにチーム一丸となってチームワークを大事にし皆で協力し合い厳しいつらい練習にも耐え、自分達の人生の中で今しかない短い高校球児としてできることを後悔しないよう頑張りたいと思います。部員一人一人が納得できるよう日々努力し、常に良い結果が得られるよう頑張っています。

(主将 嶋林 史太)

理科クラブ

私達、理科クラブでは、いろいろな事に、挑戦しています。例えば、トンボ玉作りや染め物etc。科学教育研究協議会で発表した時、染め物をお客さんに実際に染めてもらい、その楽しさを一緒に味わってもらえました。トンボ玉でジュズレットを作った時も、“アツ”という間に売れてしまい、頭骨も完売しました。頭骨とは牛や羊や猪などの頭をドラム缶に入れ水で煮込み、5～6時間後にドラム缶からだし皮をはぎ、骨になるまできれいにし、仕上げに漂白剤につけておく。これは理科クラブに入っていなければ体験できないことです。みんなの心が一つになり、協力し合ったからこそ、できたことだと思います。これからもずっと後輩達に受け継いでほしいです。なんにでも挑戦しているクラブは少ないと思います。高校生活でしかできない事を、どんな時でも中途半端になげださず、がんばってほしいです。つらい時も最後までガンバレ!!

(大桑 悦子)

柔道部

柏原東高校創立20周年を迎え、ここに柔道部（女子）の過去の主な戦績を記したいと思います。

近年女子柔道の人口も増え、オリンピックの正式種目にも取り入れられるようになりました。本校の柔道部にも平成2年1名、平成3年6名女子が入部して来ましたが、彼女達は、全くの初心者ではありましたが、男子部員と一緒に練習を重ね実力をつけていきました。平成4年1月18日に行われた近畿大会大阪府予選ではベスト8で敗れましたが、出場決定戦で勝つことができ、2月1日大阪代表として近畿大会（和歌山県）に出場することができました。さらに6月6日に行われたインターハイ大阪予選では優勝校の箕面学園には敗れましたが、3位に入賞することができました。



第33回近畿高等学校柔道新人大会
(平成4年2月1日和歌山県立体育館)

《主な戦績》

第2回大阪高等学校女子柔道大会兼近畿大会予選会
平成4年1月18日

団体の部 1回戦 柏原東3-0 守口北
2回戦 2-0 八尾
3回戦 3-0 住吉
4回戦 0-2 桜宮

近畿大会出場決定戦 3-0 東商業 近畿大会出場
出場メンバー

1. 大木 美加 (15期生)
2. 澤井 久実 (14期生)
3. 柴 美鈴 (14期生)
- 補. 伊藤 典子 (15期生)

個人の部 -66キログラム級 第3位 柴 美鈴
-61キログラム級 ベスト8 大木美加

第33回近畿高等学校柔道新人大会

平成4年2月1日 和歌山県立体育館

女子団体の部

予選リーグ 柏原東2-1 貴志川(和歌山)
1-0 守山(滋賀)
0-3 湊川女子(兵庫)

予選リーグ2位のため決勝トーナメントに進出
できずベスト16

第41回全国大会大阪府予選会女子団体の部

平成4年6月6日 修道館

2回戦 柏原東2-1 大和川
3回戦 3-0 住吉
4回戦 2-1 堺東
準決勝 0-2 箕面学園

第3位入賞

出場メンバー

1. 大木美加 (15期生)
2. 澤井久実 (14期生)
3. 柴 美鈴 (14期生)
- 補. 伊藤典子 (15期生)

第10回大阪府下高等学校女子柔道体重別選手権大会兼

第9回近畿大会選手選考会

平成4年8月3日 修道館

-66キログラム級 第3位 柴 美鈴(14期生)
ベスト8 澤井久実(14期生)

2名は第9回近畿高等学校女子柔道体重別選手権 大会
(奈良県)に出場

第3回大阪高等学校女子柔道大会兼近畿大会予選会

平成5年1月16日 大阪国際武道センター

団体の部 2回戦 柏原東2-1 堺上
3回戦 2-0 鳳
4回戦 0-3 堺東

近畿大会出場決定戦 0-3 桜宮
惜しくも近畿大会出場できず

出場メンバー

1. 伊藤典子 (15期生)
2. 山下直子 (15期生)
3. 大木美加 (15期生)
- 補. 樋口真弓 (15期生)

個人の部

-48キログラム級 ベスト8 伊藤典子(15期生)
-61キログラム級 第3位 大木美加(15期生)



体育系





文化系

柏原東の20年をふりかえって 未来へ大きな飛躍を！



’96年5月27日（月）

午前中は中間テストで、生徒が帰った午後2時から校長室で、始まりました。

もう1時間も前から来られている先生もおられ、それだけでも先輩の先生方の熱意が伝わってきます。

歴史から未来へ

まずは校長のオープニングのあいさつ。

今までの柏原東の歴史を創ってこられた諸先生方への感謝の気持ちのこもったもので、本校のこれからの発展を願ったすばらしい内容。

オープニング・スピーチのエッセンスは、柏原東の歴史的時代区分。

ひじょうにわかりやすい。

「『1. 創設期』。学校を作っていくたいへんな努力を先輩諸先生方がされた時期。

いろんな事件が、相次いで起きた『2. 激動期』。

（それらが終わって、わたしが赴任したんですが、）

今の『3. 安定期』。

不屈不撓の精神で頑張ってきた過去があるからこそ、今があるし、今後の発展につながると思います。

ここ2・3年の新しい取り組みとしては、たとえば、

- ア. 制服が新しくなったこと、
- イ. 情報社会のニーズにこたえて、情報コースができたこと、
- ウ. 行事の見直し、体育祭が6月になったこと、

もっと大きな変化としては、12クラス規模が、7クラス規模になって生徒が半分になってしまったこと、

などがありますが、昔をなつかしく思い出していただいて、

『4. 今後の発展期』につなげたいと思います。」

個性あふれる先生方

司会（守屋）：お互い知らない先生方もいらっしゃるの指摘もありますので、10期の卒業生でもある、国語科の『喜多村 妙』先生から全員の紹介を。

喜多村：（時計の逆回りに）

進路の元祖 一見病弱そうで、なんのなんの、若いやつに絶対負けない永遠の青年 わたくしも2年の時担任していただいた恩師『川西 哲』先生、

大声一番、激動期の柏原東のために生まれてきたような人かと思ったら、安定期にもなじんでしまった 17期学年主任 社会科の『中瀬 弘』先生、

生指部長の任期が終わったと思ったら、教務部長によこすべり、「ごくろうさまです」としかいいようのない救世主、なんでもパイオニア、歩くサービス精神『白浜 治作』先生、

この記事の編集責任（が果たせるかどうか不安を感じさせませんが）、英語科の『田口 順一』先生、

20周年記念誌編集長、仕事をなんでも抱え込んでしまう苦勞人、美術の『桐山 成人』先生、

これからの柏原東をつくる20期生学年主任、おだやかな外見に激情を秘め、国語科の

『谷口 政己』先生、
ごんたくれをいつのまにやら

協力者にしてしまった超能力、
12期学年主任、国語科の

『辻 光男』先生、

泣く子も黙る、寝た子も起きる、こわいばかりじゃない、人情味あふれる名物生指部長だった『杉山 昇』先生、

学年主任を11期と15期の2回もやっていただいた、必殺調停人、『仲谷 秀雄』先生、

ざっくばらん、隠し事のない元祖生指部長 9期学年主任

『米田 (こめた) 藤博』先生、
教務部長として、歴史にのこる (といわれた) 成績処理プログラム・入試処理プログラムを作成、7期学年主任でもある

『前防 道徳』先生、

いつまでも若い、体育の

『春名 秀子』先生、

本日司会の、図書館はこの人なしではどうにもならない、

『守屋 泰江』先生、

米田：タバコすわしてもろてよろしいでっか？ (さすが紳士、マナーが身につけておられる)

杉山：タバコはやめた。

田口：すみません、わたし喘息になってしましまして、タバコの煙が... (タバコを我慢させた先生方ごめんなさい)

司会：(むかしの生徒みたいに) どこかで隠れて吸っていただかないといけないようです。(笑い)

※ ここで、

「苦労した人からしやべつてもらわんと」

「いやいや、誰も苦労みたいなしとらへんがな」

とかなんとか、ゆすり合いが続いてわけがわからんカオス状態になってしまい、

司会者の独断で、春名先生にまともな発言をもとめる。

春名：なつかしい先生方のお顔を見せていただいていたいへんう

れしいです。

柏原東に来たときは独身だったのに、結婚して子供を産んで、その下の子も、もうすぐ幼稚園。学校と一緒に成長してきたようなものです。

『創設期』『激動期』『安定期』というお話がありましたが、16年たっても頭から離れないのが『激動期』の毎日ですね、

「仕事で人が変わる」と言いますが、わたしももともとはこんなんじゃないかなって思ってますよ (笑い)。性格も変わったと思います。それだけに愛着も愛校心も大きいですね。

激動期はいつから？

川西：激動期はいつからいつまでやったんかなあ？

口々に：

「6期からやで、

「4期からしんどなったと思う」、

「7・8・9期ですよ」、

「13期14期もしんどかった」、

とまたまたカオス状態。

米田：わしは、9期がいちばんえらかった。

それに比べたら、「はじめのころはしんどかったやろ」とみんな思ってくれはるやろけど、はじめの3年は「しんどい」という感じせなんだなあ。

川西：そのころは、生徒と教員の関係がむちゃくちゃうまいことだったと思う。

就職でも、3年の担任が会社まわりにでかけるときに、生徒が

「せんせ、ごくろうさん」と窓から手を振ってくれた。

担任が出かけて留守でも、そうじは手抜きしないし。会社の人が来校されるような時期には、早朝から登校して、たーと廊下を掃除してくれた生徒もいた。

忙しくて時々泊まり込みになったけどもそんな日には、どこかで聞きつけて、学校でご飯炊い

ておにぎりつくって、

「センセ、がんばってや」と、差し入れてくれた生徒もいた。

生指はしんどかったと思うが、進路はそれ以上のやりがいがあった。

米田：しんどかったいうても、「最初はこんなもんやろ」と思ってるからなあ。

杉山：人に言われたんやなくて、「自分でこの学校を選んだんや」という意気込みがはじめの生徒にはあって、しんどかった頃の生徒とは違ごうた。

施設もスタッフも不十分やったけど、生徒の名前と顔が一致する人数で始まったので、ファミリー的な雰囲気、言われるほどしんどい気はせなんだなあ。

通学路の問題とか、地域の人たちとの問題とか、毎日が戦争のような忙しさやったけども、学校の中では先生と生徒の人間関係はたいへんうまくいったと思う。

府県境のこんな不便なとこにできた学校へは、よっぽど自分の意志がなかったらこなかったのちがうかな。

米田：国分駅前がきれいに開発されてなかった時で、たいへんやった。まだ陸橋もなかった。警察から

「通学はこの道を通せ」と

指定された道は、いっぺん村の中へ入って国豊橋のたもへでてくる道で、橋が目前に見えとんのに、ぐるっとまわってくるので、守らせるのが無理やった。

朝はなんとかなるけれども、下校の時は6時間目終わって飛んでいっても生徒の方が早い。指導できへんから、警察からはせんど文句は言われるし。

地元の方は、「高校生はまじめなもんや」というイメージがあるけれども、東大阪や大阪市内の遠いところから島流しのみじめな気分で行く生徒は、まじめにやるどころの気分やなかつ

たとおもう。

※ もちろんこのころは、JR『高井田』駅はなかった。徒歩約30分の近鉄『国分』が最寄り駅。JRでは、歩いて45分ぐらいかかる『河内堅上』がいちばん近くて、10年後に高井田駅ができたときはほんまにうれしかった。「これからようなる」という気がした。

川西：いろいろ問題を起こしてくれて、東大阪や大阪市内までの家庭訪問がしょちゅうあって、一月の出張旅費が18,000円の月もありましたなあ。

バーンと看板が



杉山：昭和51年の末、第109府立高校建設用地の看板がバーンと立って、電車の中から見た人が、

「こんな県境のえらい人里離れたところに学校つくって、どないするねん。」

「生徒くるんやろか。」

「どないして来んねんやろ。」

「あんなえらい坂、年寄りの先生登れるんやろか」と言うとしたわな。

田口：ほくも、まさか何年か先で転勤してくるとは思わなから、電車の窓から見て同じように

「なんで...どないして...」と言うてましたね。

川西：柏原東へきてから、運転免許とった先生も多いですよ。

仲谷：ほくも最初はバイクで、しばらくしてから免許取りにきましたわ。

※ 免許は、通勤だけでなく、家庭訪問や就職開拓の企業訪問でも必需品になった。家庭訪問で話し込んで、気がついたらもう電車もない時間！という経験もある。明るる日の授業がしんどかった。平均年齢が20代の若さやったからできたんやろか？それにしてもこのころの年寄りの先生方も、若者以上に強かった。どこからあんなエネルギーが出てきたんか？

オーッ、来たで！来たで！

杉山：地盤が岩だらけで、建設工事ものすご遅れて、「どないなることか」と心配した。

米田：ところが、1期生は応募が100人ぐらいオーバー。今の保健室が受付やったんやけど、そこから見てたら、芝山のむこうからずらっと並んで志願者がやってきた。

「オーッ、来たで来たで」

そのおかげで、不合格者がたくさん出て地元の中学からおしかりを受けた。

前防：校舎も東の3分の1しかできてなくて、受験場が足りなかった。理科室でも60人か70人も受験した。採点もたいへんやった。

受験生が多いところへ、職員は26人、いや24人(?)。兼任の先生もいて、採点できるのは10数人。

応援には来てもらったが、人手が足りなくてたいへん困った。応援の先生がたは、9時半頃に帰ってもらって、後は20数人の職員で夜中まで採点してたなあ。米田：入学式に生徒手帳を間に合わすのも、まるで綱渡り状態。

ほんまに苦勞した。設立準備室が八尾東高校にあって。

学年ごとの職員室が

川西：1期生の時の意気込みが、生徒数が2倍3倍に増えて行くにつれて薄まってきた。

激動期はいつからはじまったんやろか。

仲谷：6期の2年の時に転勤してきて、いきなり担任。辻センセも1年前に来て、一緒に担任しましたなあ。丙午（ひのえうま）で9クラス、学年主任は『井上一馬』センセ。

このときに、学年ごとの職員室ができた。夏休みが終わってから、教室でタバコが出るようになって、「これはほっといたらアカン」ということで、最初は4～5人の有志がそれぞれの階の真ん中の部屋に詰め始めた。まだ学年職員室という感じではなかったけど。

しかしそれでも、修学旅行（スキー）の時はクラスごとの行事も立派にできたし、6期はいい面もたくさんあった。

※ これからしばらく、松本ドライブイン事件や、教員は休み時間の休憩は廊下で立ち番をするようになってしまったモーモーけむりの件、山本駅の〇〇事件、各階両端の1組と12組は押さえの効くセンセが担任するようになったこと、などなど、話題はもりあがりにもりあがり、混乱に混乱を極め

「やっぱり7・8・9期がいちばん激動期か」…。

田口：私も、8期が2年の時に転勤してきていきなり担任で、性格が変わりました、人生観も人間観も変わりました。そのおかげで、生徒にも学校にも、一生忘れられない愛着があります（涙）。

異様な廊下

白浜：9期が2年の時にこの学校へ来ましたが、あのときの雰囲気は、廊下を歩いていても異様でしたね。

辻：あのころは、本気で「教員をやめよう」と考えておられた先生も何人もありましたね。

白浜：いろんな事件を起こしてくれましたが、そういう生徒たちの心の底にあるのは自信のなさ。

人なつっこくていろいろ聞いてくるんですね。

転勤してきたわたしに、「センセ、どっからきたん。(その学校は)かしこいん?」と聞くんですね。その時に、何かが見えた気がしました。

コンプレックスが、度を過ぎたいはずらという形で現れたんじゃないかなと思いますね。

中瀬：コンプレックスという点では、10期の卒業生でもある喜多村先生どうでしたか?

喜多村：かなりあったと思いますよ。

わたしはのんきやから、何も考えんとのんびり暮らしてまし



たが。1年の時から「進学したい」と言うて勉強してたら、「こんな学校へ来て、勉強なんかしてもむだやからやめとき」といわれたこともありましたね(苦笑)。

川西：中学で見放されてしまっ

て声もかけてもらえなかった子らが、この学校へ来て、たとえおこられるというかたちでも構ってもらえるのがうれしいのか、とてもひとなつっこい憎めないワルが何人もいました。

守屋：市内からの生徒も多かった。クラブやるのも大変、自信のもてる経験に乏しいとか、コンプレックスとかはあるけれども、うちへ来て息を吹き返したような生徒は何人もいましたね。

川西：いつも、「やめるかやめへんか」、というような話ばかりでギリギリの生徒が、卒業してから会うたら、人なつっこくて、

「いつも声をかけてもらって、面倒見てもらいました」というんですね。

杉山：たとえば、大阪市内で目の前にも府立高校があるのにそれに背を向けて来るのは、つらかったやろな。

分譲住宅と同じで、駅から何分で評価が決まるという考え方からすれば、最悪の立地条件でスタートした学校が、ここまで来たのやから、これからは発展あるのみ、あかるい将来が約束されてる気もするなあ(夢見る少年の表情)。

川西：「こんなやつが」と思っていた生徒が、連凧や気球の行事の時に、先頭に立ってやってた。

「力を合わせて何かをなしとげる」という素地が、うちの生徒だけでなくこのごろの生徒たちにはなくなっているような気がするの、それをこの学校で学んでくれたとしたらうれしいですね。

中瀬：連凧は10期で始まって、13期までやりましたね。

バレンタインのチョコが

白浜：荒れていた時代の「なんちゅう生徒や」と思っていたようなヤツが、卒業式の日に、「センセ、世話になったなあ」とプレゼントをくれたことも何度もあった。

感謝の気持ちを言葉では言い表せなくて、物というかたちであらわしてくれるやさしさだと思いますよ。

米田：バレンタインのチョコレートはくさるほどもろたわ、わはは。(笑い。真偽は、あえて追及せず)

白浜：いちばんしんどかった時期には、終礼の時「起立、礼」で顔をあげたら生徒はだれもいなかったということもありましたわ。1年間担任ひとり教室の掃除しました。

辻：朝のショート(ホームルーム)で、

「生徒がひとりもおらへん」と先生が職員室へ帰ってきたという信じられんことがあったの、ようおぼえてますわ。

米田：そんなことあったかいな。

辻：〇〇先生のクラスやったと思いますよ。信じられんことやったからよけいおぼえてるんですけども。

田口：遠足で集合したら、男子は結局ひとりしか来なかったことがあったのはおぼえてますが。

中瀬：9期の3年の時が、遅刻の数がいちばん多くて1年間で18,000件になった時期もあったなあ。

「悪いことをしてる」という意識がまったくなくて、冬は半纏着てくるわ、夏は下着の白シャツで来るわ、むちゃくちゃでしたわ。

ドアはどこへ？ 鏡はどこへ？

加山雄三：トイレの入り口のドアをはずしたのはいつごろからですか。

米田：2年目ぐらいからやったなあ。あんまりタバコがすごいんではずしたんや。

はずしたらこんどはめこむのが、あまりにもたいへんなんで、「もう絶対つけへん」と（技能員の）和田さんからいわれました。

口々に：

「はずしたドアはどこへいったんやろ？」

「カガミはいつからなくなったんやろ？」

「進路の前のトイレはいつから閉めてあるんですか？」

10周年の時

米田：10周年は、7、8、9期の時でこんな話をしてる余裕はなかった。あんなしんどいときに13人も転勤して出ていくし。午前2時ぐらいまで会議やったこともあった。内容は前向きの建設的なもんやったけども。

米田：同じ時期の新設6校のうちで、クラブをいちばん先に始めたのは、柏原東。

5月の連休明けからスタートしたが、道具もない。球技大会でも、ソフトをやろうとしてもバットがない。



バレーは支柱はない、ネットはない。なんにもない。八尾高校から全部借りてきた。

1期生1年で第1回の文化祭もやったけど、体育館もなかったから、柏原市民会館でやった。

職員が「星影のワルツ」を歌とたんやけど、

「センス、歌みたいなよう歌わんやろ」

と生徒が大きな星をつくってきてくれて、それをわしが上げ下げしてたんをおぼえてるわ。

施設が足りない分は、職員・生徒の一体となったエネルギーでカバーしましたよ。

杉山：体育祭では、河内音頭を習ってきて生徒に教えたんや。

建築廃材をみんなで切ってファイアの準備した。

校舎の屋上から火矢みたいなもの飛ばして点火するようになったんは10期からやったかな。

かんちゃん（体育・上林先生）とか、びんちゃん（理科・備後先生）とか、若いセンスががんばっているいろいろ工夫したんや。

100m走は担任も一緒に走った。障害物も走ったなあ。

中瀬：先生の仮装行列もなくなりました。いやがるセンスがいて。

杉山：公式野球部は初代校長が「金もかかるし、運動場を独占してしまうので、ほかのクラブができなくなる」

と許可してくれなかったが、生徒が集まってきて発足できた。ベスト16でテレビにでる直前まで行ったわなあ。

後輩のために

川西：就職した生徒たちも、「後輩のためにつらくてもがんばる」

と言ってくれた言葉どおりで裏切らなかった。

就職の開拓は経験もなかったことで、はじめはどうしたらいい

いのかわからなかったが、いろんなセンスに助けもらった。

会社年鑑をしらべて選んで、「ここは可能性があるから案内状出そう」

「ここはまわれ」

担任も担任外も、全員が会社に飛び込み訪問して求人をもたらるようになった。企業訪問の旅費も膨大な額になった。生徒が、「センスしんどいでしょ」というてくれてがんばれたんやと思うわ。

辻：停学の家庭訪問もよういきましたなあ。停学街道という名前が付いた道路もあつたりして。「停学街道」はもう死語になりましたんやろか。

停学でこれだけいいねいに、家庭訪問して指導してる学校はないと思いますよ。

川西：いろいろ意見の違うことも出てきて、毎日議論をしながらやったんがよかったんかな。

たとえば進路でも、「入社試験に遅れそうになったり、何かあったら電話できるように10円玉（テレカ以前の昔話）持っていくように」

と指導したら、

「なんでそこまで幼稚園みたいなことまでいわなあきませぬん」

とか

中瀬：生指でも生徒の見方を毎日議論したり、進路でも企業訪問のやり方をマニュアル化したり、若い教員がいろんなことを身につけていったと思います。

杉山：就職対策なんかの面接指導もようやったなあ。

安定期に

川西：激動期がどうやって安定期に入ったんやろか。

中瀬：7～9期は、進路やら生指やら教務やら、分掌中心でまわってたけど、10期ぐらいから